

第16期定時株主総会 質疑応答概要および事前質問へのご回答

株主総会における質疑応答

【質問①】

石炭火力発電セクターのファイナンス方針について

【回答】

持続可能な環境、社会の実現は、当社にとって最大の重要な使命です。そのため、2018年5月に「MUF G環境・社会ポリシーフレームワーク」を制定し、定期的に見直しを行って参りました。今年4月には、その改定を行い、石炭火力発電所の新設に加え、既存発電設備の拡張にもファイナンスを行わないこととしております。例外的に検討する場合として、パリ協定目標達成に必要な技術を備えた石炭火力発電所に限定し、より厳格な目線を定めました。また、石炭火力発電向けプロジェクトファイナンスについては、2030年度に2019年度比5割の削減、そして2040年度目途にゼロにする目標を定めています。このような活動を継続し、持続可能な環境・社会の実現に向け、貢献を続けて参ります。

【質問②】

原子力発電セクターの投融資方針について

【回答】

原子力発電事業に対しては、社会的意義、安全性、賠償等を含めた各国のエネルギー政策や制度、世論、財政状況などを総合的に踏まえながら、慎重に検討を行っています。引き続き、科学的根拠に基づいた議論と納得性などについて十分に検討を行い、慎重に判断して参ります。

【質問③】

環境、人権に関する取組方針等が海外子会社に適用されない理由について

【回答】

当社では、取締役会が決定する「環境方針」および「人権方針」を規定しています。これらに関連して、与信の基本的な方針として、「MUF G環境・社会ポリシーフレームワーク」を規定しています。

今般、それらを包含する基本理念として「MUF Gカーボンニュートラル宣言」を行いました。同宣言は、海外子会社も含めて対応しています。ポリシーフレームワークは直接的に適用していませんが、対応状況に重要な点で大きな差異はありません。当社は責任ある金融機関として、ステークホルダーの皆様と共に、カーボンニュートラルを実現していく努力を続けて参ります。

【質問④】

第1号議案（剰余金処分）の必要性・存在意義について

【回答】

期末配当金の決定は、株主還元という、株主総会議案の中でも重要なものの一つと考えております。今回、期末配当金 12.5 円をご提案させていただいておりますが、配当に関する方針も併せてご説明させていただきながら、これを株主の皆様にご承認いただくことは重要な手続きであると考えています。

【質問⑤】

デジタル通貨の取組みについて

【回答】

決済の面でキャッシュレスがデジタル化の中で進展していると認識しており、当社も様々な形で研究を進めています。中央銀行が検討を進めているCBDC（Central Bank Digital Currency）についても注視しております。デジタル通貨に関しては、消費者の皆様が使いやすいデジタル通貨とはどのようなものか、将来的な実用化も睨みながら、MUFGとしてどのような貢献が可能かを模索しております。

【質問⑥】

社外取締役の選任基準について

【回答】

当社では、取締役は、株主により選任された経営の受託者として、その職務の執行について忠実義務・善管注意義務を適切に果たし、当社の持続的な成長に貢献するための資質や、経営陣の職務執行を適切に監督するための資質を備えていることなどの一定の選任基準を定め、それを満たす人材を取締役候補者に指名しています。

【質問⑦】

高齢者への対応について

【回答】

高齢のお客さまとのお取引は、当社において年々重要になっています。ご提供するサービスについて、お客様に使っていただきやすい、安心してお取引いただけるサービスの充実に努めています。また、店頭の設定につきましても、例えば、車椅子でご来店いただきやすい形にするなどの取組みも行っています。さらに、デジタル化においても、高齢のお客さまの視点を踏まえながら進めて参ります。

事前質問へのご回答

株主総会に先立ち、お寄せ頂いた事前質問のうち、株主の皆さまのご関心が高いと思われる事項についてご回答申し上げます。

【質問①】

傘下銀行の与信費用見通し、足許状況について

【回答】

三菱UFJ銀行では2020年度、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた航空機ファイナンスや、個人消費関連サービス向け与信を中心に費用が発生しました。

今年度の見通しについては、経済の不確実性はありますが、前年比で減少と見込んでいます。一方で、新型コロナウイルス感染症からの回復には、業種や国毎に違いがみられ、引き続き、注意してみていく必要があると考えています。

【質問②】

銀行の従業員教育（窓口業務）について

【回答】

当社グループでは「お客さま本位」で考え、信用・信頼に応えるべく、「MUFG Way」の下に「行動規範」を定め、グループ各社で社員研修等を実施しています。また、お客様の声を本部で集約・分析のうえ、現場拠点に還元し、サービス・業務等の改善に向けた指導・育成に活用しています。

加えて、各支店にCSリーダーを任命し、各種研修、ロールプレイング等を通じ、接客対応の向上に努めて参ります。

【質問③】

2021年6月の三菱UFJ銀行におけるATM障害について

【回答】

本件は、無人店舗の一部ATMが使用停止となり、お客さまの通帳・カード等を一時お返しできなかったものです。原因は、ATMサーバと端末を繋ぐネットワークの通信障害が発生したことにあります。お客様への対応は全件完了いたしました。

今後に向けて、初動対応等の態勢強化に着手しています。また、監視センターにて、24時間365日、ネットワークの状態を監視しており、障害発生時の検知や製品ベンダーによる対応などを迅速に行える態勢を整えています。

【質問④】

サイバー攻撃への備えについて

【回答】

当社では、サイバー攻撃等に係るリスクを「トップリスク」に位置づけ、経営主導によるサイバーセキュリティ対策を推進しています。国際的なガイドラインを踏まえ、サイバーセキュリティの基準を整備し、組織体制の構築を含めたセキュリティ強化の取組みを推進しています。

今後も脅威動向の変化を捉え、サイバーセキュリティ対策への取組みを継続して参ります。

【質問⑤】

今後の海外成長戦略、国内外の経営資源の投入バランスについて

【回答】

「成長戦略」として掲げる「アジアビジネス」では、インドネシアのバンクダナモンの成長支援を中心に、コンシューマーファイナンス強化や Grab 社との協働によるデジタル化等、成長するASEANを面で捉えた戦略を展開します。欧州・米州については、事業ポートフォリオの見直し等による収益性向上に向けた取組みを進めます。

国内外の経営資源の投入バランスについては、地域の成長性や当社の強みを見極めて、それに見合った経営資源の最適配置を引き続き推進しています。

【質問⑥】

中長期的なクレジットカード事業戦略について

【回答】

クレジットカードは、普及度合いや後払い等のサービス特性に鑑み、今後も主要なキャッシュレス手段の地位を維持し続けると考えています。

当社では、三菱UFJニコスを中核企業と位置づけ、システム統合により経営の非効率性を解消し、カードの利便性向上等、事業競争力を強化して参ります。

【質問⑦】

SDGs (Sustainable Development Goals) への取り組みによる収益への貢献について

【回答】

当社は、「環境・社会が持続可能であってはじめて、MUFJも持続的に成長できる」との考えのもと、環境・社会課題の解決と経営戦略を一体と捉えて価値創造に取り組んでいます。中期経営計画において、「優先的に取り組む10課題」を起点に、各事業本部が、特性と強みを活かし、課題に対する戦略や施策を展開して参ります。

ファイナンスを通じた取り組みとして、サステナブルファイナンス目標を20兆円から35兆円に上方修正しました。具体的には、環境分野では、再生可能エネルギー向け融資・プロジェクトファイナンスの組成、グリーンボンドの引受・販売等に、また社会分野では、産業育成・雇用創出や地域活性化・地方創生に資する事業、インフラ・サービス事業向けファイナンスとして、「新産業成長サポートプログラム」、「地方創生ファンド」、公共インフラ向け融資・プロジェクトファイナンスの組成、ソーシャルボンドの引受・販売等に取り組んで参ります。

ご質問のほかにも、「株価上昇に期待したい」「増収増配を期待しています」「いつも応援しています。株主利益向上のために経営よろしくお願いします」など、多くのご意見もいただきました。当社といたしましては、株主さまのご期待にお応えできるよう、企業価値向上に向けて取り組んで参る所存です。引き続きのご支援、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以 上